

放射能の基礎知識と災害時の 子どもの心のケア研修会（報告）

千葉県教育委員会では、平成23年6月1日(水)午後1時より千葉県文化会館大ホールにて、公立小・中・高等学校及び特別支援学校の養護教員等を対象に「放射能の基礎知識と災害時の子どもの心のケア研修会」を開催しました。東日本大震災に伴う原発事故による放射能の問題に対する基礎的な知識を正しく理解するとともに、災害時の児童生徒の心のケアのあり方について理解を深めることを目的に実施され、約1,400名が参加しました。以下、研修会の報告をします。

研修内容

- 1 講義 現役放射線科医が語る「放射線の基礎知識」
公益財団法人 原子力安全研究協会 放射線災害医療研究所
副所長 山本 尚幸 氏
- 2 説明 「子どもの心のケアのために」
千葉県教育庁教育振興部 学校安全保健課 指導主事 岩崎 順子

こどもの心のケアのために（抜粋）

1. 災害によるストレス反応について

- ・ 幼児期から少年前期 退行（甘える，ひとりでできない）
- ・ 少年中期から思春期前期 行動化（イライラ人に当たる，はしゃぐ）
- ・ 思春期以降 抑うつ，身体化（だるい・頭痛・不眠・食欲はない）

2. ストレス反応への援助について

予想できない大災害によるストレス反応は、誰でも起きる「あたりまえの反応」でPTSR（心的外傷後のストレス反応）といい、心のケアによって、**ほぼ1～2か月**で収束します

本来、人はストレス状態に陥ると、自分自身でその状態を乗り越える回復力を持っている。その回復力を引き出す援助を「心のケア」といいます。

3. 千葉県での心のケア

まず、周囲の大人が落ち着いて関わるのが大切ホッとできる安全な場所や安心な人がいること

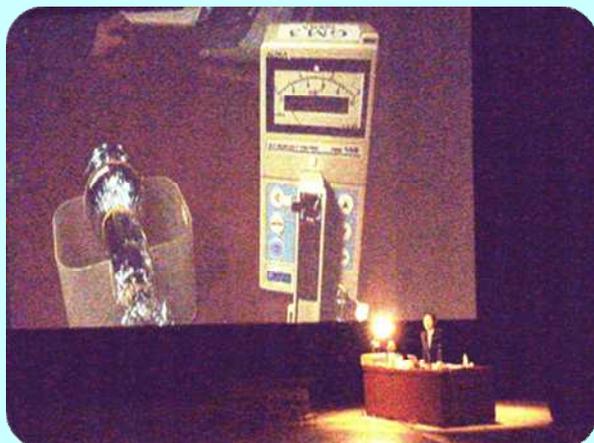
子どもの生活のリズムを整え、子どものペースが保てるようにすること

身体症状や不安には「手当て」（手を当ててさすったり，手を握ったりなど）が有効です

4. 子どもの心のケアの体制づくり

先生方も被災していることを忘れずに・・・
スクールカウンセラー・担任との連携・健康観察の強化・情報の共有

【研修会の様子】平成23年6月1日(水)(県文化会館)



公益財団法人原子力安全研究協会
山本 尚幸 氏より、放射線についての
講義をいただきました。

（問合せ先）

教育振興部学校安全保健課
保健給食室 保健班

043 - 223 - 4092

